

地球温暖化は自然現象

原因は、地球自転の永年減速にあると思われ、人知ではコントロール不可

2017年6月19日

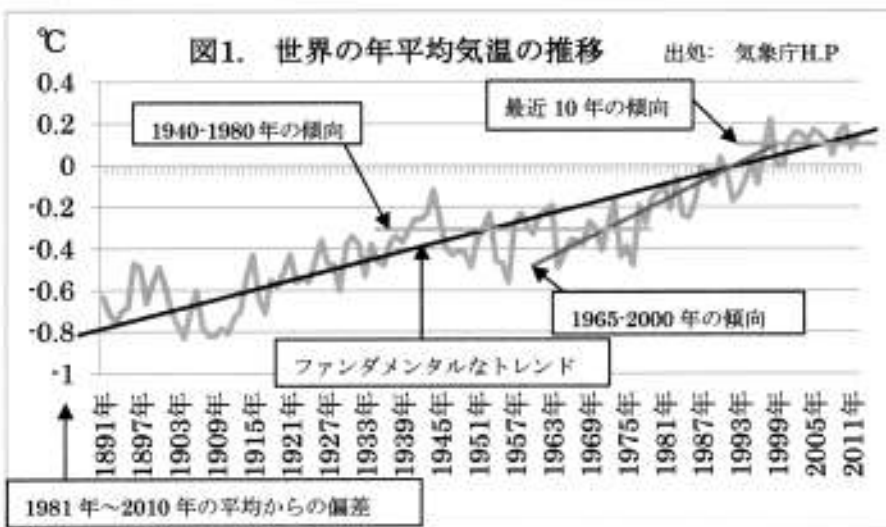
キーワード： 地球温暖化 地球自転速度 地球形状

小野房吉

近年、気候の温暖化が、地球環境の悪化を齎していると、世界の問題として議論されている。原因として、人類が、生活の豊かさを求めて消費する化石燃料の燃焼ガス、フロンガス等温室効果ガスの排出が、取りざたされている。しかし、果たしてそうか？ 気象庁が、年毎に公表している1891年から現在に至る120年余の、世界の年平均気温の推移を見ると、多少の凸凹はあるものの、平均的には一貫して一直線のトレンドで上昇傾向を示している。図1参照。

これは温暖化が、近年の特異現象ではなく、悠久な時の流れに沿って、生じている自然現象を示唆している。

一方、化石燃料は有限の資源、この節約は、現代に生きる全人類に、希求されている課題である。そこでこの諸国民説得の理由として科学的に異論ありでも、温室効果ガス犯人説は都合がよい。そのため何処かの国の為政者が、それに乗りアピールした。だが化石燃料節約で、温暖化が止まるとす



るのは錯覚、それは図1の歴史的傾向を見れば明らか、原因は他にあると思える。確かに1965-2000年の短期で見れば、温暖化が加速しているように見える。しかし、それは一部を見ての判断だ。近年(2000年以後)は横ばいとなっている。ファンダメンタルなトレンドは、変っていない。太陽の輻射熱に比べ、圧倒的に小さい温室効果ガスの効果など、取るに足らない。冬の、よく晴れた日の翌朝の冷え込みは、地上に住む誰もが、日常経験済み。この原因は放射冷却によるとされている。もし本当に地球が温室効果ガスで包まれ、保温されているとしたら、このようなことは有り得ない。どう見ても20世紀初頭から、ほぼ一直線の上昇傾向の、温暖化説明には無理がある。

一部トレンドの急な時期のみに着目、ものを云うのは明らかに恣意的だ。統計データの全期間を通じて、その推移を公平に見、歴史的見地から解釈することを、当該現役研究者に望む。

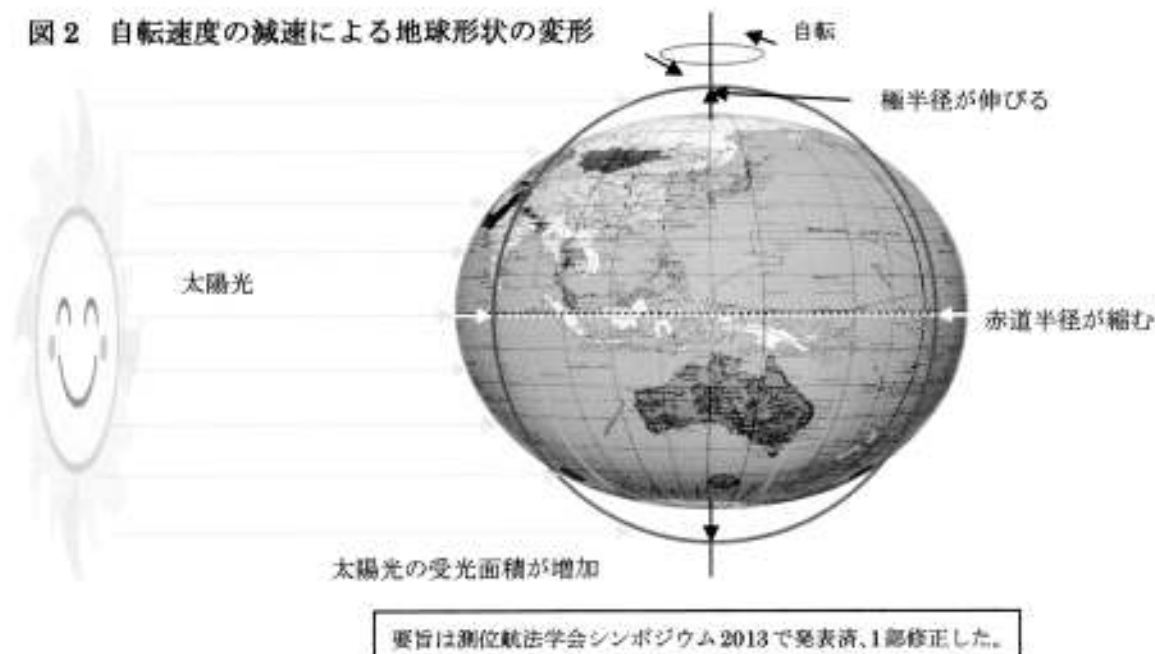
一方、気温の永年変化を、説明できると思われる観測成果が、GPS測位の長期連続観測から得られた。GPS測位(緯度、経度、標高)の変化分について、過去8年分グラフに描いたところ、年月の経過に対して一方的に変化していたのである。即ち、

標高が22cm/年、緯度が10cm/年、経度が16cm/年程度。図2参照。これは地球形状が永年的に変化しつつある証拠。変化の原因を考察するに、それは筆者が現役時代に携わった、星食観測で確認された、地球自転の永年減速にあるらしい。理由は、自転速度が減速すると、回転楕円体としての地球の扁平率が、小さくなり、剛体でない地球の、重力バランスが変化し、形が変わる。どう変わるかというと、長半径(赤道半径)が縮み、短半径(極半径)が伸びる。つまり、丸みを増す。図3参照。この事は、地球から見た太陽光の当たりが良くなることを意味する。何となれば、太陽光は、赤道の上空方向(つまり地球を扁平にみる方向)から到来するからだ。丸みを増せば当然、それだけ日当たりが良くなる。これこそが遠い過去から現在に至る地球温暖化の原因と考える。世界は、この現実を直視した対処が肝要と思う。

地球自転速度が永年減速している証拠

「うるう秒」の挿入。これは、地球自転速度の減速による世界時の原子時に対する偏差を調整するもの。半年、又は数年毎に、世界一斉に実施される。最近、2016.12.31に実施された。

図2 自転速度の減速による地球形状の変形



トランプ政権は、地球温暖化に対するバリ宣言は、「でっち上げ、うそ」と言い、離脱を宣言したが、私もその通りだと思う。ここに再掲した文書は、2013年測位航法学会で発表済みであるが、今もその通りと思う。石炭等化石燃料消費を抑えた位で、自然現象を変えること事はできない。地球の緑化は人類の願いと思うが、その資金調達に炭素税は、最もらしく、科学に疎い国民を説得し易い。しかし、地球が温室効果ガスで保温されているなら、季節による温度変化など生じないはずだ。では、原因は何か？

地球温暖化の原因 世界の平均気温は、我が気象庁、過去200年の統計(HP)によれば、(図1)

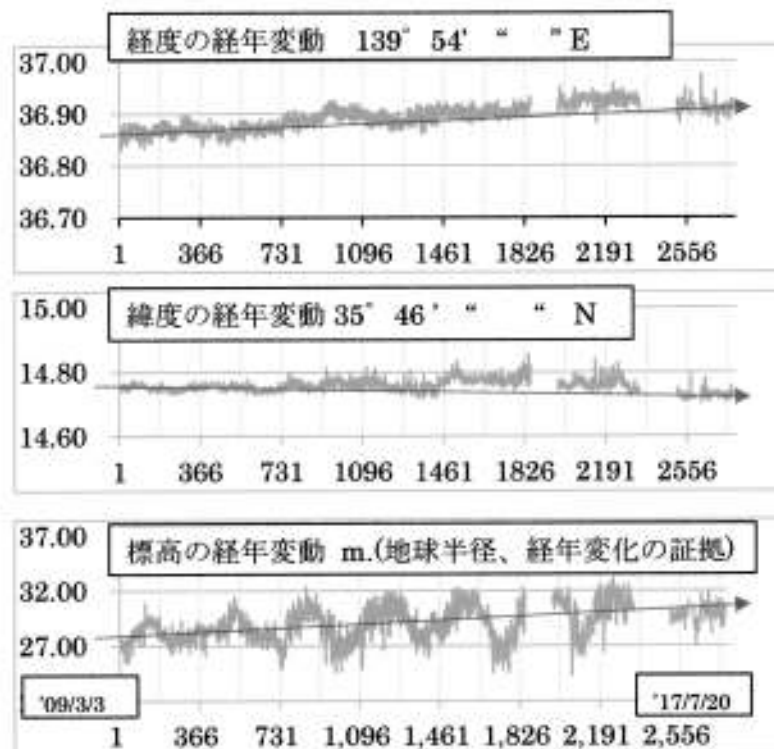


図3 経度、緯度、標高の経年変動(WGS84)

測地系 WGS84 は地球中心が原点であるから、標高の経年変動は、地球の長半径が変化したことになる。この測定量は、地球上の特定点基準の標高測定では、測定不可である。念の為。

0.7°C/100年ペースの上昇だ。これに対し、国際機関 IPCC の云う、近年の気温上昇ペースは急で、このペースで、気温が上昇すると今世紀末には、数度も上昇すると予測し、警告している。しかし、これはトランプ政権が言うようにでっち

上げで、地球温暖化、二酸化炭素原因説はウソと思う。近年、乾燥地帯で砂漠化が進み、由々しき事態であることは、認めるが、科学的知見を「でっち上げる」ことは、宜しくないと思う。これが IPCC に集う科学者の良識か？

地球のグリーン化資金を、集めるためとは言え、「うそ」で騙すようなやり方は、頂けない。何れにしても、温暖化と関係なく、地球緑化は、必要なこと。正直に訴えればよい。そのための資金、国民負担は当然、容認しなければならないと思う。

最後に、自然現象を人為的に変えるなどできない。と記し、キーを置く。